「第8回 葬祭等に関する意識調査」報告

一般財団法人　冠婚葬祭文化振興財団
冠婚葬祭総合研究所

2025.02.21

目次

1.本調査の概要
1.1.本調査の概要 P3
1.2.コロナ禍の影響を考慮した質問と期間の定義 P4

2.喪主経験・参列経験
2.1.喪主経験・参列経験の有無 P5
2.2.参列しなかった理由 P6
2.3.参列した葬儀の形式 P7

3.希望する家族の葬儀形式
3.1.2018～2024年　推移 P8
3.2.喪主経験・参列経験・年代別 P9
3.3.「一般葬」の選択理由 P10
3.4.「家族葬」の選択理由 P11
3.5.「直葬」の選択理由 P12

4.葬儀の意義（葬儀で大切に思うこと）
4.1.2023年、2024年の比較 P13
4.2.大切だと思うことを叶えるために必要な行動 P14
4.3.大切だと思うことを叶えるために必要な費用 P15
4.4.大切だと思うことを叶えるための行動に必要な費用 P16

5.葬儀の規模感や予算感の変化
葬儀の規模感や予算感の変化 P17

6.友人の葬儀への参列意向
6.1.友人の葬儀への参列意向 P18
6.2.親しい友人の葬儀に参列できない場合の対応 P19

7.最近の葬儀のスタイルに対する評価
7.1.最近の葬儀のスタイルに対する評価＿1 P20
7.2.最近の葬儀のスタイルに対する評価＿2 P21

8.墓に対する意識
8.1.墓に対する意識 P22
8.2.墓以外の埋葬方法等についての意識 P23

9.仏壇に対する意識
仏壇に対する意識 P24

10.家族の年忌法要・家族の長寿祝い
家族の年忌法要・家族の長寿祝い P25

11.これからの葬儀のあり方（自由意見）
これからの葬儀のあり方 P26

12.まとめ
まとめ P27

本調査は互助会保証株式会社の委託事業として実施しているものです。

1.本調査の概要

1.1.　本調査の概要

昨今の様々な社会環境変化の中で、葬祭の形も家族葬や直葬といった小規模なものに変化しているが、消費者の意識がどう変わっているのか、またその背景にあるものは何かを探ることにより、今後の業界の方向性への示唆を得ることを本調査の目的としている。

変化を把握しやすくするために、例年同時期に、同様の質問を同じ聞き方で継続している。

【調査対象】
全国に居住する一般生活者（男女）
・第３回（2018年3月）　：団塊ジュニア世代以降（44歳以上）3,000人
・第４回（2020年4月）　：団塊ジュニア世代以降（46歳以上）3,000人
・第５回（2021年2月）　：50～89歳　年齢階層別に各500人、計2,000人
・第６回（2022年10月）：40～89歳　年齢階層別に各500人、計2,500人
・第７回（2023年11月）：40～70代以上　年齢階層別に各500人、計2,000人
・第８回（2024年11月）：40～70代以上　年齢階層別に各500人、計2,000人（今回調査）

※報告書の過去の値については、上記調査時のものを反映

【サンプル割付】　（人）

	男性	女性	合計
40代	250	250	500
50代	250	250	500
60代	250	250	500
70代以上	250	250	500
合計	1,000	1,000	2,000

【同居家族】　（%）

全体（人）	夫・妻	父・母（配偶者の父母含む）	子ども	孫	兄弟・姉妹	その他の方	なし（ひとり暮らし）
2,000	64.9	13.3	33.8	1.8	2.7	1.4	19.6

【調査手法】
インターネットによるアンケート調査
上記いずれの調査もおおむね地域人口に比例した割合で都道府県別にヒアリングを実施。

１.本調査の概要

1.2.　コロナ禍の影響を考慮した質問と期間の定義

【対象期間】

以下の質問についてはコロナ禍の影響があるため、「３期間」に分けてヒアリングした。

①葬家経験有無　②参列経験有無　③参列した葬儀スタイル　④参列しなかった理由

※①～④以外の質問については、質問時点においての意識をヒアリング。

【３期間】

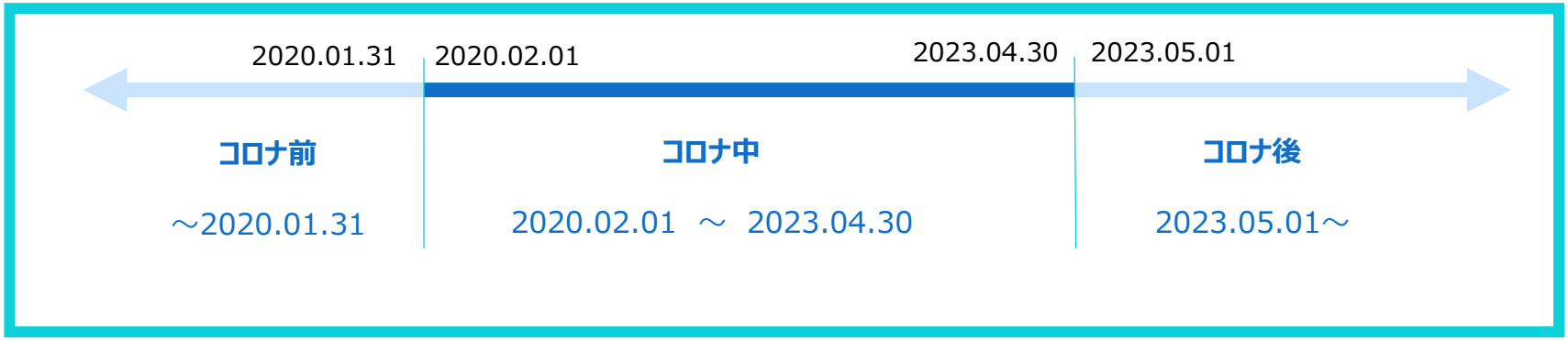
・**コロナ前**：令和2（2020）年1月以前

・**コロナ中**：令和2（2020）年2月～令和5（2023）年4月

➡新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症」（いわゆる2類相当）とされていた期間

・**コロナ後**：令和5（2023）年5月以降

➡新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」へ変更以降



2.喪主経験・参列経験

2.1.　喪主経験・参列経験の有無

今回調査（2024年）の回答者での喪主経験の有無や葬儀参列経験の有無は、前回調査と同程度での水準であった。

葬儀参列について「参列した人」の割合と「参列しなかった人」の割合をコロナ前・コロナ後でみると、前回・今回調査とも「参列しなかった人」の割合が、コロナ中で急激に増加し、コロナ後においても参列しなかった人の割合はあまり減っていない。

喪主の経験

Q.あなたまたはあなたの配偶者は、ご家族のご葬儀で喪主（喪主ではないが実質的に葬儀を取り仕切った場合も含む）を経験されましたか。

	コロナ前	コロナ中	コロナ後
2023年	604人（30.2%）	248人（12.4%）	94人（4.7%）
2024年	611人（30.6%）	225人（11.3%）	155人（7.8%）

※「コロナ前」「コロナ中」「コロナ後」の定義はP4を参照

「コロナ後」の期間：
2023年　2023年5月1日～11月９日（約6か月）
2024年　2023年5月1日～2024年10月29日（約1年6か月）

参列経験の有無（人数と割合）

Q.あなたは家族・親族や親交のある友人・知人のご葬儀（通夜・告別式・お別れ会を含む）に参列した経験がありますか。
葬儀に参列した機会が複数あった場合は、あなたの傾向に一番近いものをお答えください。

		コロナ前	コロナ中	コロナ後
2023年	参列した	1,243人（62.2%）	625人（31.3%）	334人（16.7%）
	参列しなかった※	36人（1.8%）	191人（9.6%）	95人（4.8%）
	参列した割合	**97.2%**	**76.6%**	**77.9%**
	参列しなかった割合	**2.8%**	**23.4%**	**22.1%**
2024年	参列した	1,262人（63.1%）	600人（30%）	580人（29%）
	参列しなかった※	40人（2.0%）	154人（7.7%）	111人（5.6%）
	参列した割合	**96.9%**	**79.6%**	**83.9%**
	参列しなかった割合	**3.1%**	**20.4%**	**16.1%**

※「参列しなかった」について：
2023年
機会はあったが参列しなかった

2024年
葬儀は知っていたが参列しなかった・できなかった

※今回調査（2024年）から「参列したかったが、葬儀があることを知らなかった」という選択肢を設け、参列しなかった数に加えていない。

そのため、参列しなかった割合が前回調査より小さくなっている。

➡　参列しなかった割合が増えているのはどうしてか

2.喪主経験・参列経験

2.2.　参列しなかった理由

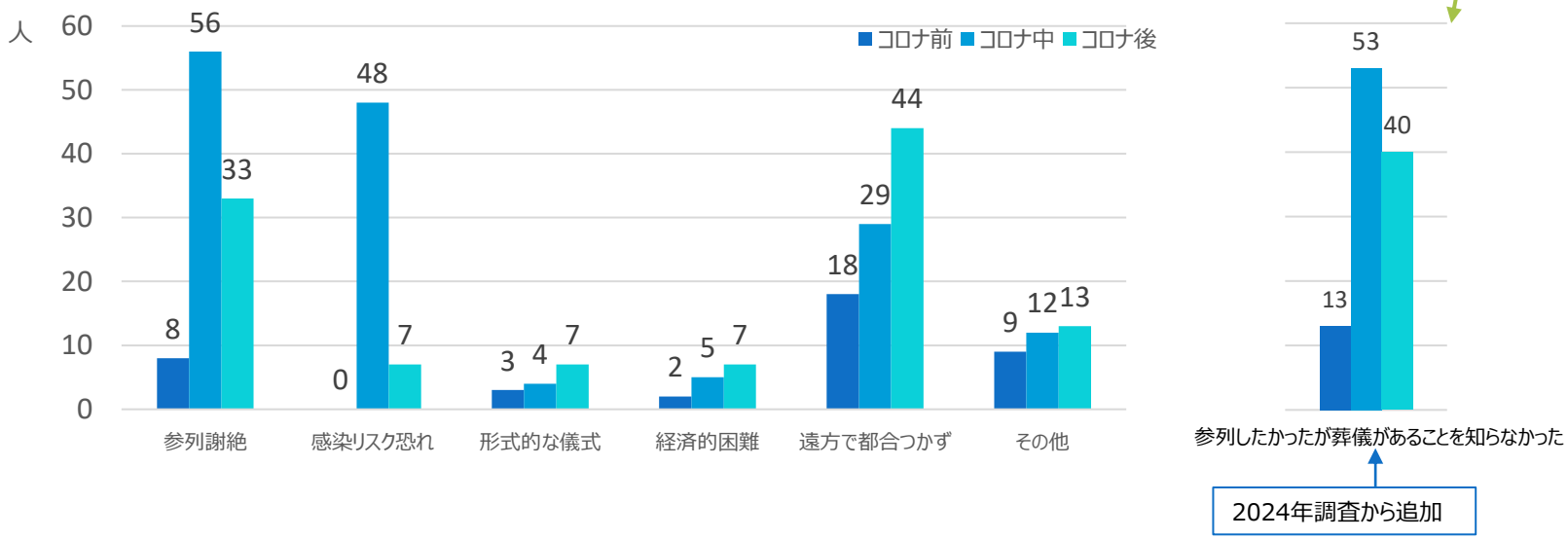
家族・親族や親しい友人・知人の葬儀に参列しなかった理由として、コロナ中に「参列を謝絶された」、「感染リスク」が急増したが、コロナ後に「感染リスク」が解消されても参列の謝絶はあまり減らず、「遠方等で都合つかず」が大きく増加している。また、「参列したかったが葬儀があることを知らなかった」人もコロナ以降は相当数存在し、コロナを経て、葬儀に「呼ばない」、「都合がつかない」が定着する流れにある。

参列の有無（2024年の調査結果）

	コロナ前	コロナ中	コロナ後
参列した	1,262人	600人	580人
参列しなかった	40人	154人	111人
参列しなかった割合	3.1%	20.4%	16.1%

今回から回答に追加。
「参列しなかった」人の数に入れていないが、選択者は多かった

Q.参列経験の有無→（P５の回答で）参列しなかったを選択した人に　参列しなかった理由は何ですか



➡　では、実際に参列した葬儀はどんな形式だったか

2.喪主経験・参列経験

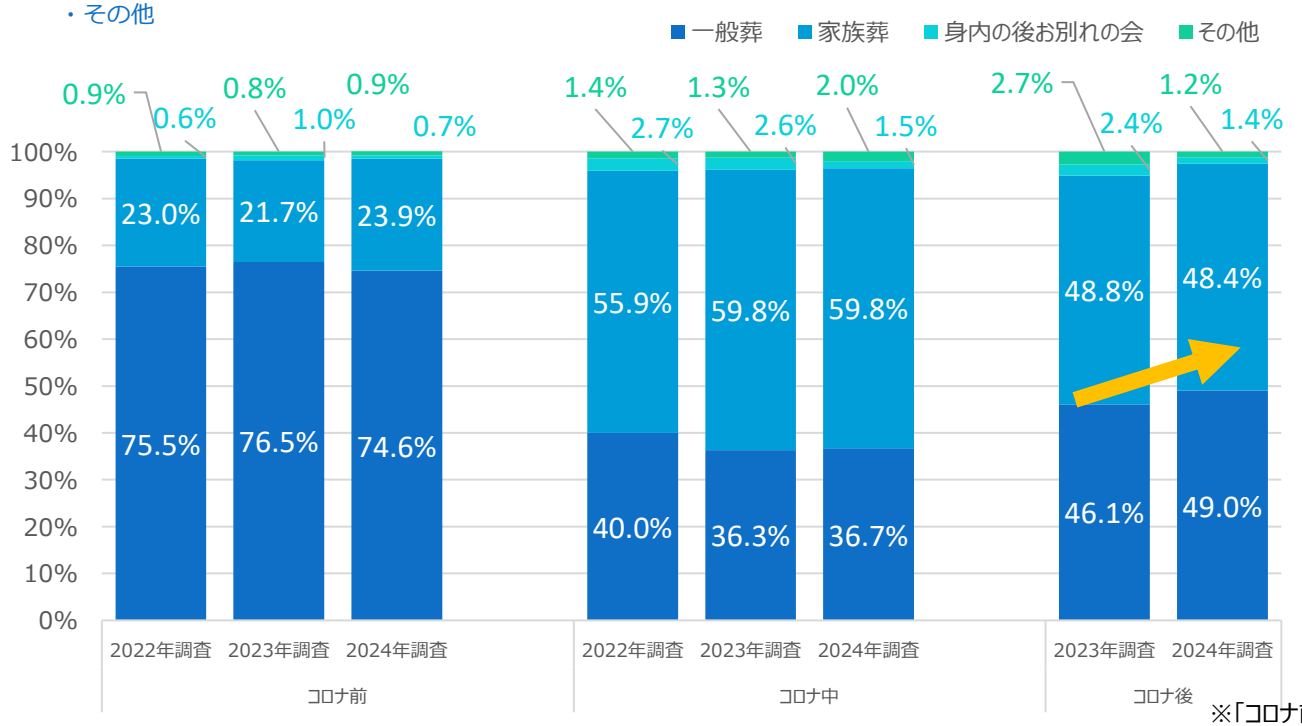
2.3.　参列した葬儀の形式

回答者が参列した葬儀の形式について、3回の調査ではコロナ前･コロナ中はほぼ同じ結果で、コロナにより大幅に｢一般葬｣が減少し｢家族葬｣が増加した。コロナ後については、コロナ中と比べて｢一般葬｣が盛り返して増加しており、コロナ後の経過日数が2023年調査より多い2024年調査では「一般葬」がさらに増加している。

参列した葬儀スタイル

Q.参列経験の有無→（P５の回答で）参列した　を選択した人に
参列したご葬儀はそれぞれどのような形式でしたか（複数参加した場合は、最も多い形式）

・家族や親族だけでなく、友人やお世話になった方も参列できる葬儀
・家族や親族だけで行う葬儀
・後日開催された「お別れの会」
・その他



家族や親族だけでなく、友人やお世話になった方も参列できる葬儀
・・・本報告では｢一般葬｣と呼ぶ

家族や親族だけで行う葬儀
・・・「家族葬」と呼ぶ

※｢コロナ前｣｢コロナ中｣｢コロナ後｣の定義はP4を参照

➡　実際の葬儀は「一般葬」が増加しているが、回答者が希望する葬儀はどうなっているか

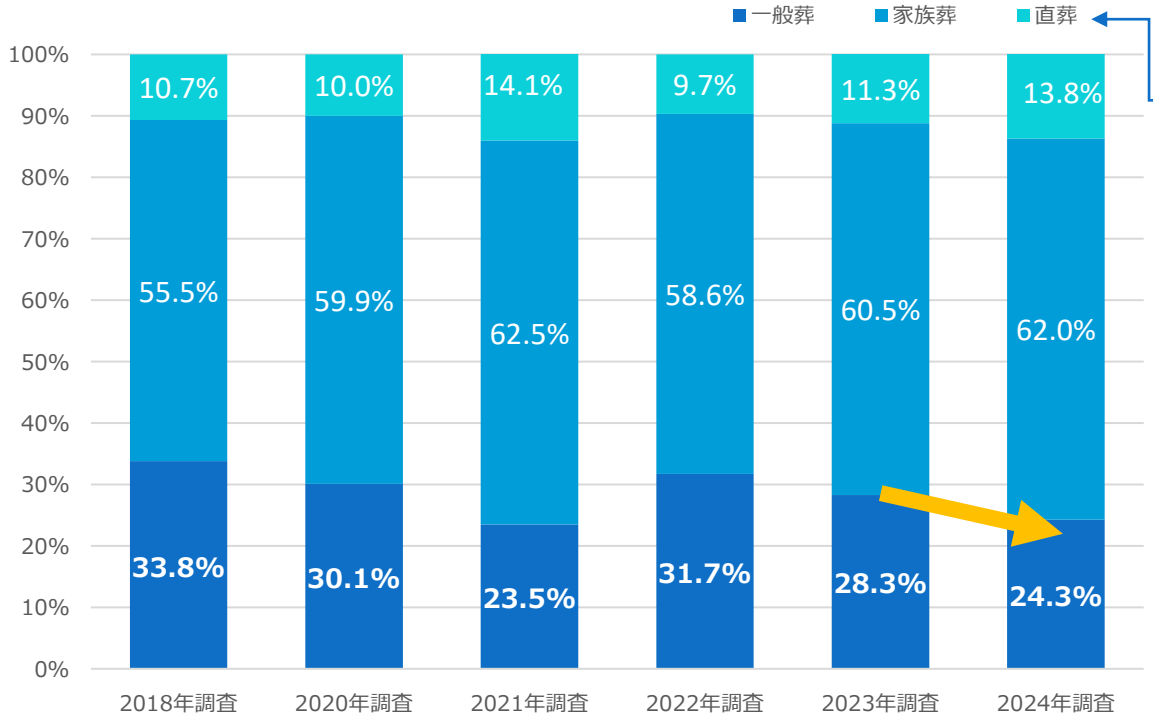
3.希望する家族の葬儀形式

3.1.　2018年～2024年　推移

家族の葬儀についての希望は、2018年調査から推移を見ると、コロナの時期に一時盛り返したものの「一般葬」が減少し「家族葬」「直葬」が増加するという傾向になっており、回答者の意識としては「小規模・簡素化」が徐々に進行している。

Q.あなたのご家族（ご両親や配偶者等）のご葬儀について、あなたはどのようにお考えですか。以下から最も今のお気持ちに近いものをお選びください。

・友人やお世話になった方も参列できる葬儀にしてあげたい
・家族や親族だけで行う葬儀にしてあげたい
・葬儀を行わずに火葬だけを行うものでよい



友人やお世話になった方も参列できる葬儀にしてあげたい
・・・「一般葬」と呼ぶ

家族や親族だけで行う葬儀にしてあげたい
・・・「家族葬」と呼ぶ

葬儀を行わずに火葬だけを行うものでよい
・・・「直葬」と呼ぶ

一般葬：24.3%
家族葬：62.0%
直葬：13.8%

一般葬希望が減る流れになっている。

➡　希望する葬儀は、喪主経験や参列経験、年代などによって違いがあるのか

3.希望する家族の葬儀形式

3.2.　喪主経験・参列経験・年代別

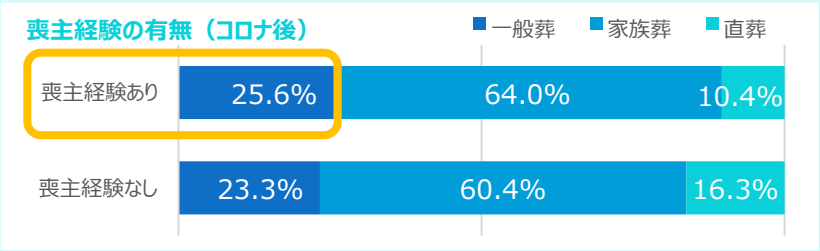
家族の葬儀についての回答をコロナ後の「喪主経験」の有無で見ると、「経験あり」と「経験なし」で「一般葬」を希望する人に大きな差はない。　一方で、葬儀への「参列経験」の有無で見た場合、「経験あり」は「経験なし」と比べて「一般葬」を希望する人の割合がずっと高くなっている。　また、「直葬」を希望する人は「喪主経験」「参列経験」とも「経験なし」の人の部分で多くなっている。

「年代別」では、40代で「一般葬」希望が多くなっているが、反面「直葬」を志向する人も多い。周囲とのつながりが上の年代よりも多いが、従来からの形をそのまま受け入れない多様な価値観が窺える。

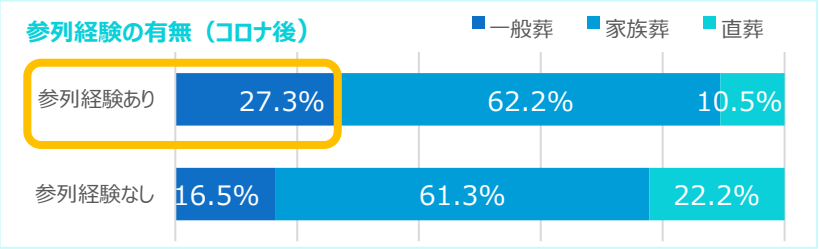
希望する家族の葬儀形式（2024年）		
一般葬	家族葬	直葬
485人（24.3%）	1,239人（62.0%）	276人（13.8%）

「直葬」希望は葬儀参列や喪主経験がない人や若い年代に多い。
参列経験者で「一般葬」希望が多いのは、参列することによって家族の葬儀を考える契機になっているからではないか。

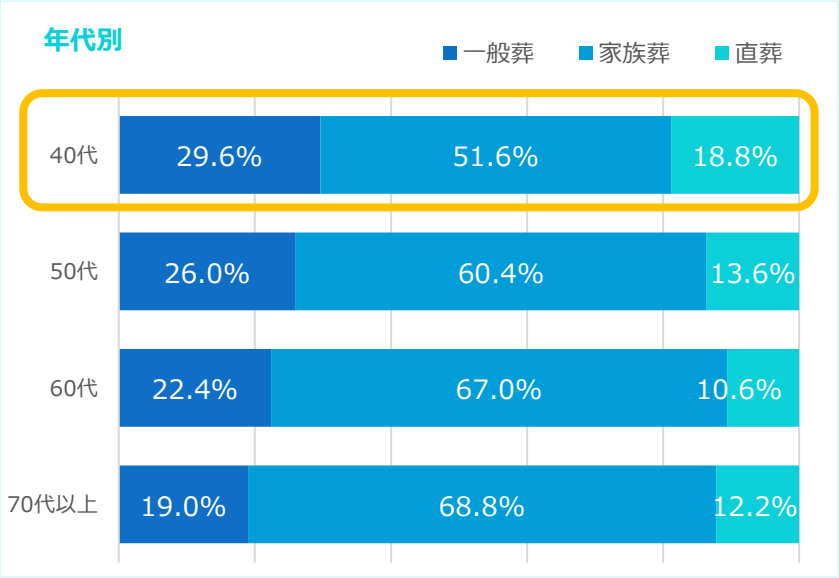
→　葬儀の簡素化を止めるには
若い年代や葬儀の経験がない人に対して「葬儀の意義」を伝えていくとともに、親しい人を葬儀に呼んでもらって「しっかりとした葬儀」を見せていくことが重要



喪主経験の有無で一般葬の希望について大きな差はない。



参列経験のある人はない人と比べて一般葬を希望する傾向が強い



40代は一般葬、家族葬、直葬と選択肢が多様

➡　「一般葬」「家族葬」「直葬」を選択する人はどんな理由からか

3.希望する家族の葬儀形式

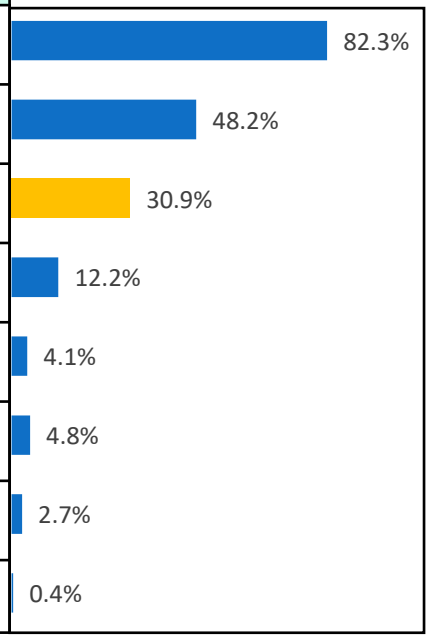
3.3.　「一般葬」の選択理由

「一般葬」を希望する人の選択理由としては「友人やお世話になった方とも最後のお別れができるようにしてあげたい」「人生最後の儀式としてできるだけしっかりとした形で送り出してあげたい」といった「対外的な意識」や「形」が大きな割合を占めているが、2023年調査と2024年調査では「一般葬」を希望する人自体が大きく減少している。2024年調査では「自分たちの気持ちを整理するためにも友人や知人に参列してほしい」が大きく減少している。

Q.家族のご葬儀について「一般葬」をしてあげたい　を選択した理由（いくつでも）

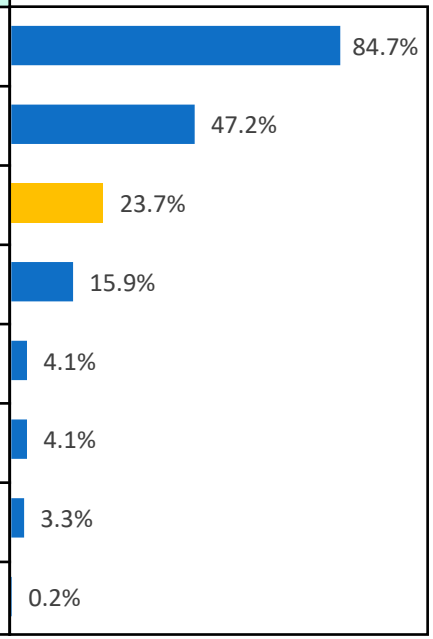
2023年調査

	2023年 n=566
1.友人やお世話になった方とも最期のお別れができるようにしてあげたいから	82.3%（466人）
2.人生の最期の儀式としてできるだけしっかりとした形で送り出してあげたいから	48.2%（273人）
3.残された自分たちの気持ちを整理するためにも友人や知人に参列してほしいから	30.9%（175人）
4.葬儀後、自宅にいろいろな方々からの弔問を受ける方が負担だから	12.2%（69人）
5.世間体や親族の手前	4.1%（23人）
6.当人が希望しているから	4.8%（27人）
7.香典などを考えるとかえって経済的だから	2.7%（15人）
8.その他	0.4%（2人）



2024年調査

2024年 n=485
84.7%（411人）
47.2%（229人）
23.7%（115人）
15.9%（77人）
4.1%（20人）
4.1%（20人）
3.3%（16人）
0.2%（1人）



3.希望する家族の葬儀形式

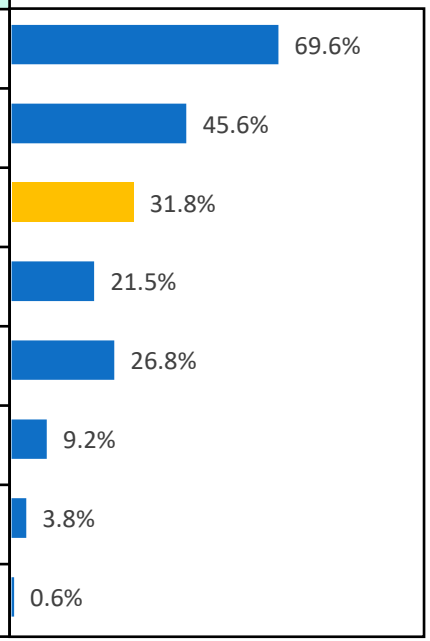
3.4.　「家族葬」の選択理由

「家族葬」を希望する人の選択理由としては「身内だけでゆっくりと故人を偲べる」「参列者に負担をかけなくても済む」が多くあり、「外部とのつながりの希薄化」が感じられる。「当人が希望しているから」という家族への遠慮も多くなっている。2024年調査では「費用負担が少なくて済むと思われるから」を理由とする人が大きく増加している。

Q.家族のご葬儀について「家族葬」をしてあげたい　を選択した理由（いくつでも）

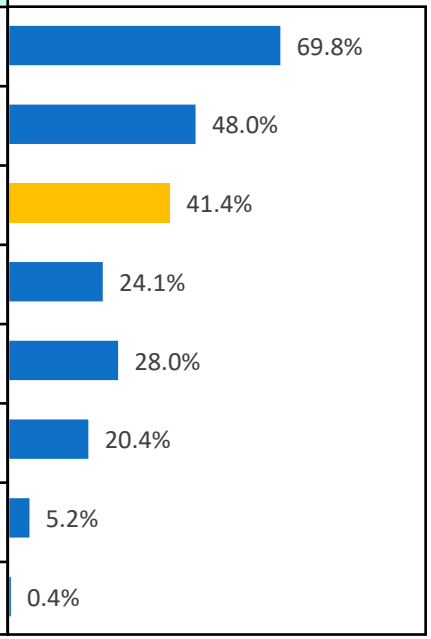
2023年調査

	2023年 n=1,209
1.身内だけの方が会葬者に気遣うこともなくゆっくりと故人を偲ぶことができるから	69.6%（841人）
2.参列する友人や知人に負担をかけなくて済むから	45.6%（551人）
3.費用負担が少なくて済むと思われるから	31.8%（384人）
4.当人と接点のあった知人への連絡や会葬者への気遣い等負担が大きいから	21.5%（260人）
5.当人が希望しているから	26.8%（324人）
6.高齢のため普段接点のある知人や参列できるような友人もあまりいないと思われるから	9.2%（111人）
7.一般の会葬者が少ないと葬儀がかえって寂しいものになってしまうから	3.8%（46人）
8.その他	0.6%（7人）



2024年調査

2024年 n=1,239
69.8%（865人）
48.0%（595人）
41.4%（513人）
24.1%（299人）
28.0%（347人）
20.4%（253人）
5.2%（65人）
0.4%（5人）



3.希望する家族の葬儀形式

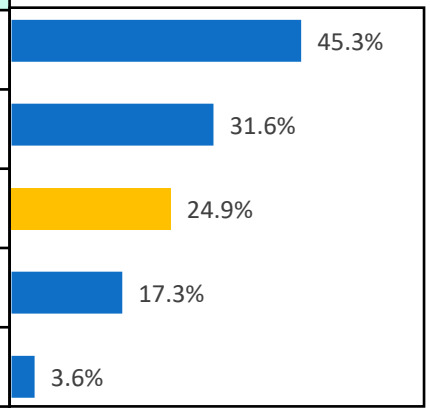
3.5.　「直葬」の選択理由

「直葬」を希望する人については「 儀式をやる意味を感じない」「当人が希望している」が大きな選択理由であるが、それぞれ選択する人が増えている。2024年調査では「経済的にあまり余裕のある状態ではないから」を理由とする人が大きく増加している。

Q.家族のご葬儀について「直葬」でよい　を選択した理由（いくつでも）

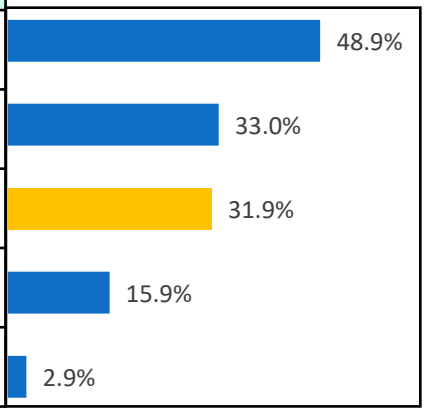
2023年調査

	2023年 n=225
1 .儀式をやる意味を感じないから	45.3%（102人）
2.当人が希望しているから	31.6%（71人）
3.経済的にあまり余裕のある状態ではないから	24.9%（56人）
4.家族とはあまり縁がないから	17.3%（39人）
5.その他	3.6%（8人）



2024年調査

2024年 n=276
48.9%（135人）
33.0%（91人）
31.9%（88人）
15.9%（44人）
2.9%（8人）



➡　希望する葬儀の形式はそれぞれだが、自分が喪主だった場合に大切に思うことは何か

4.葬儀の意義（葬儀で大切に思うこと）

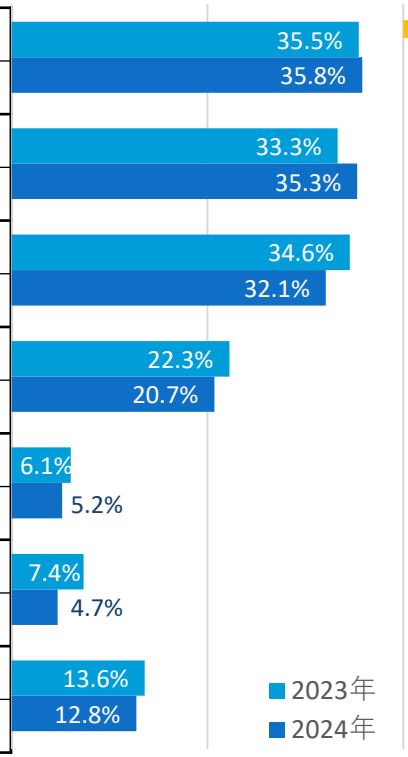
4.1.　2023年、2024年の比較

3.希望する家族の葬儀形式において、2024年調査は2023年調査と比べて「一般葬」が減少し、「家族葬」「直葬」が増加する結果となったが、「葬儀で大切に思うこと」についての意識は「関わりのあった方々に感謝の意を伝える･故人を偲んでもらう」「最後のお別れで遺族が気持ちの整理をする」といった「気持ち」の部分は低下していない。また、「特に大切に思うことはない」とする人も減っている。

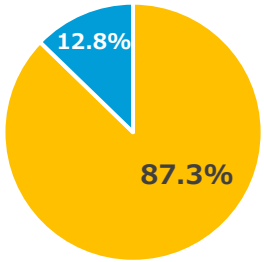
「最期の儀式として故人にふさわしいもの」「宗教的儀式」「世間体」といった「形式」にこだわる意識は低下している。

Q.　仮に、あなたが喪主としてご葬儀を行うとしたら、実施にあたって大切だと思うことは何ですか？（２つまで）

１.生前関わりのあった方々に感謝の意を伝える	2023年	709人（35.5%）
	2024年	716人（35.8%）
２.最期のお別れをすることで区切りとして残された人たちが気持ちの整理をする	2023年	666人（33.3%）
	2024年	706人（35.3%）
3.関わりのあった方々に故人の逝去を告げ故人を偲んでもらう	2023年	691人（34.6%）
	2024年	642人（32.1%）
4.人生の最期の儀式として故人にふさわしいものにする	2023年	445人（22.3%）
	2024年	414人（20.7%）
5.故人の帰依する宗教に従って、例えば仏教であれば成仏できるように宗教的儀式を行う	2023年	121人（6.1%）
	2024年	103人（5.2%）
6.世間体や親族の意向に沿うようにする	2023年	147人（7.4%）
	2024年	94人（4.7%）
7.特に大切に思うことはない	2023年	272人（13.6%）
	2024年	255人（12.8%）



大切に思うことがある（１～６）	2023年	1,728人（86.4%）
	2024年	1,745人（87.3%）
特に大切に思うことはない（７）	2023年	272人（13.6%）
	2024年	255人（12.8%）



１～６の選択肢を何らか「大切に思うことがある」として合計し、
「特に大切に思うことはない」と分けると

→87.3%が「大切に思うことがある」と回答

➡　では、大切に思うことを叶えるためにどういう行動が必要と考えているのか

4.葬儀の意義

4.2.　大切だと思うことを叶えるために必要な行動

前問で、大半の人が「葬儀に大切と思うこと」がある(1,745人)と回答しているが、それを叶えるために必要な行動として、「事前に葬儀について考える」「親身な対応の業者を探す」「自分の家族にふさわしい儀式のアドバイス」「故人らしさを表現した葬儀演出」を多数の人が挙げている。
これは「決まった形」を当てはめられるのではなく、「個々の」家族の「気持ちに寄り添った」葬儀が求めてられているということであり、葬儀事業者が力を発揮できる部分と考えられる。「気持ちが大事なので形にはこだわらない」としている人からもこれらは多く支持されている。

Q. P13で「大切に思うことがある」、と答えた1,745人に質問
→大切だと思うことを叶えるためには、どんな行動が必要だと思いますか　（3つまで回答）　（人）

	全体	一般葬	家族葬	直葬
1.厳粛な儀式をしっかりと執り行う	286	135	146	5
2.事前に葬儀について考えて準備する（親との対話、エンディングノートを書いてもらう　等）	441	136	285	20
3.親身になって対応してくれる葬儀業者を探す、事前相談する	495	170	311	14
4.自分の家族にとってふさわしい儀式のアドバイスを受ける	479	130	327	22
5.故人らしさや好みを表現した葬儀を演出する	502	163	316	23
6.葬儀の施設、装飾を充実させる	31	11	19	1
7.参列者のおもてなしを充実させる	140	64	69	7
8.その他	8	2	6	0
9.気持ちが大事なので形にはこだわらない	767	124	539	104

「形にはこだわらない」を選んだ767人の他の選択肢

	全体	一般葬	家族葬	直葬
1.	33	11	21	1
2.	130	21	101	8
3.	105	24	75	6
4.	123	20	94	9
5.	139	31	99	9
6.	1	0	1	0
7.	26	8	15	3
8.	3	0	3	0
選択なし	397	53	267	77

ニーズが多く、かつ葬儀事業者がお手伝いできるところ

「大切に思うことがある**1,745**」－（形にこだわらない767のうち「何も選択なし**397**」）＝**何らかの行動が必要…1,348**

➡　必要な行動をするためにかかる費用についてはどう考えているか

4.葬儀の意義

4.3.　大切だと思うことを叶えるために必要な費用＿1

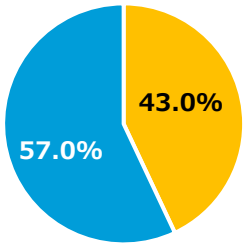
「大切に思うことを叶えるための費用」については、43%の人が「一度きりの儀式なので」「納得できれば」費用をかけてやりたいとしている。家族葬を希望する人でも多くの人(37%)が費用をかけることについて肯定的である。

Q.P13で**「大切に思うことがある」、と答えた1,745人**から、葬儀で大切だと思うことを叶えるための行動を行う場合の費用について、あなたの一番近いお考えはどれですか

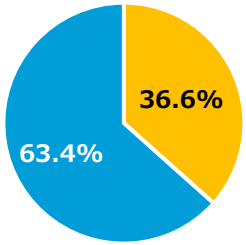
（人）

	全体	一般葬	家族葬	直葬
個人の一度きりの儀式なので、多少費用がかかってもやりたい	145	83	58	4
納得できる価値が得られるものがあれば相応の費用をかけたい	604	228	353	23
費用が多くかかるのであれば、こだわらず簡素な形でやりたい	683	135	498	50
葬儀は最初からコスト重視で費用がかからない形でやりたい	313	30	214	69

全体で749人（43.0%）が
「費用をかけてもやりたい」と回答。



「家族葬」を希望する人の中でも
411人（36.6%）が
「費用をかけてもやりたい」と回答。



4.葬儀の意義

4.4.　大切だと思うことを叶えるための行動に必要な費用＿2

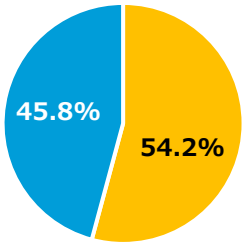
「大切に思うことを叶えるための費用」について「形にはこだわらない」と回答した人でも、3割近くの人が費用をかけることについて肯定的ある。

Q.P14で、喪主として葬儀を行う際に大切に思うことがあり、１～８（「形にこだわらない」以外）を回答した978人（1,745－767）に、費用についてヒアリング

（人）

	全体	一般葬	家族葬	直葬
故人の一度きりの儀式なので、多少費用がかかってもやりたい	116	72	41	3
納得できる価値が得られるものがあれば相応の費用をかけたい	414	178	224	12
費用が多くかかるのであれば、こだわらず簡素な形でやりたい	342	85	242	15
葬儀は最初からコスト重視で費用がかからない形でやりたい	106	17	77	12

530人（54.2%）が
「費用をかけてもやりたい」と回答。

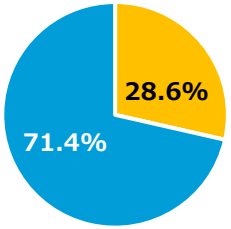


Q.P14で、喪主として葬儀を行う際に大切に思うことがあるが、９（「気持ちが大事なので形にはこだわらない」）と回答した767人に、費用についてヒアリング

（人）

	全体	一般葬	家族葬	直葬
故人の一度きりの儀式なので、多少費用がかかってもやりたい	29	11	17	1
納得できる価値が得られるものがあれば相応の費用をかけたい	190	50	129	11
費用が多くかかるのであれば、こだわらず簡素な形でやりたい	341	50	256	35
葬儀は最初からコスト重視で費用がかからない形でやりたい	207	13	137	57

「形にはこだわらない」と回答した人でも、
219人（28.6%）が
「費用をかけてもやりたい」と回答。



➡　次に葬儀の規模感や予算感について聞いてみた

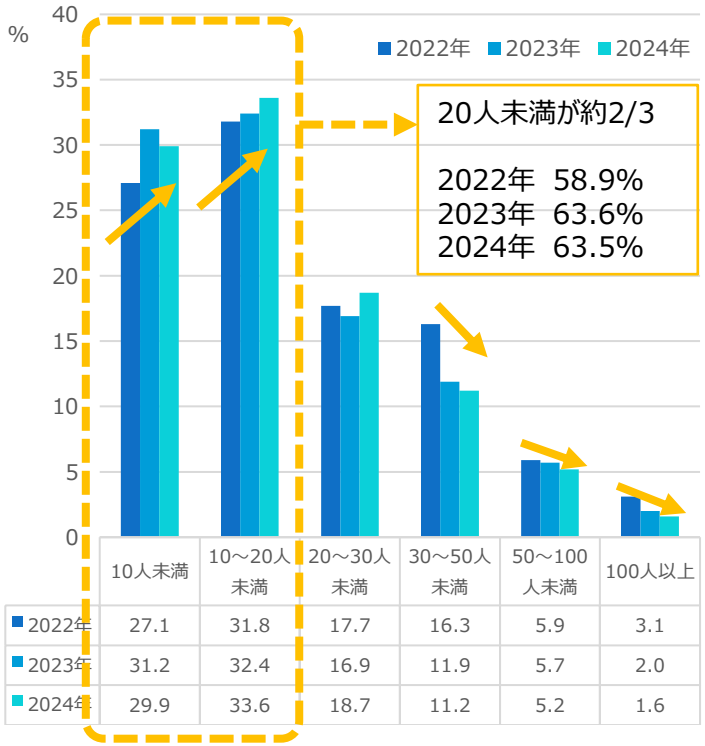
5.葬儀の規模感や予算感の変化

家族の葬儀の「会葬者の規模感」として20名未満を想定する人が全体の約３分の２となっている。30～50人、50～100人、100人以上を想定する人の割合が減少しており、小規模化の進行が回答者の意識から窺われる。

葬儀の「予算感」については、50～100万円を想定する人が階層としては最も多いが、50万円未満とする人が全体の3分の1以上で推移しており、「わからない」という人が増加している。

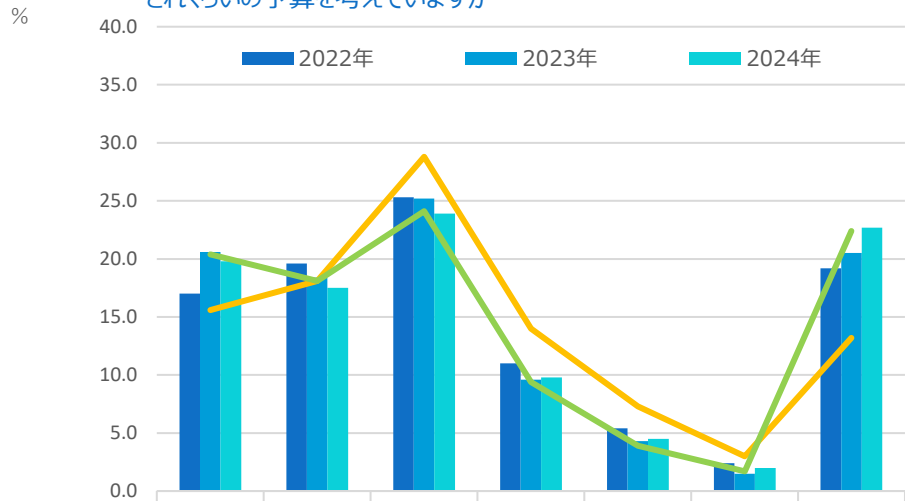
「互助会に加入している」と回答した人は、未加入としている人と比べて全体的に「予算感」が高く、「わからない」と回答している人も少ない。前もって葬儀の備えを行うことで葬儀の質の向上につながっているものと思われる。

Q.ご家族のご葬儀における会葬者数について総数をどれくらいで考えていますか



	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～50人未満	50～100人未満	100人以上
2022年	27.1	31.8	17.7	16.3	5.9	3.1
2023年	31.2	32.4	16.9	11.9	5.7	2.0
2024年	29.9	33.6	18.7	11.2	5.2	1.6

Q.ご家族の葬儀に関して、お布施などの寺院関係を除いた総額でどれくらいの予算を考えていますか



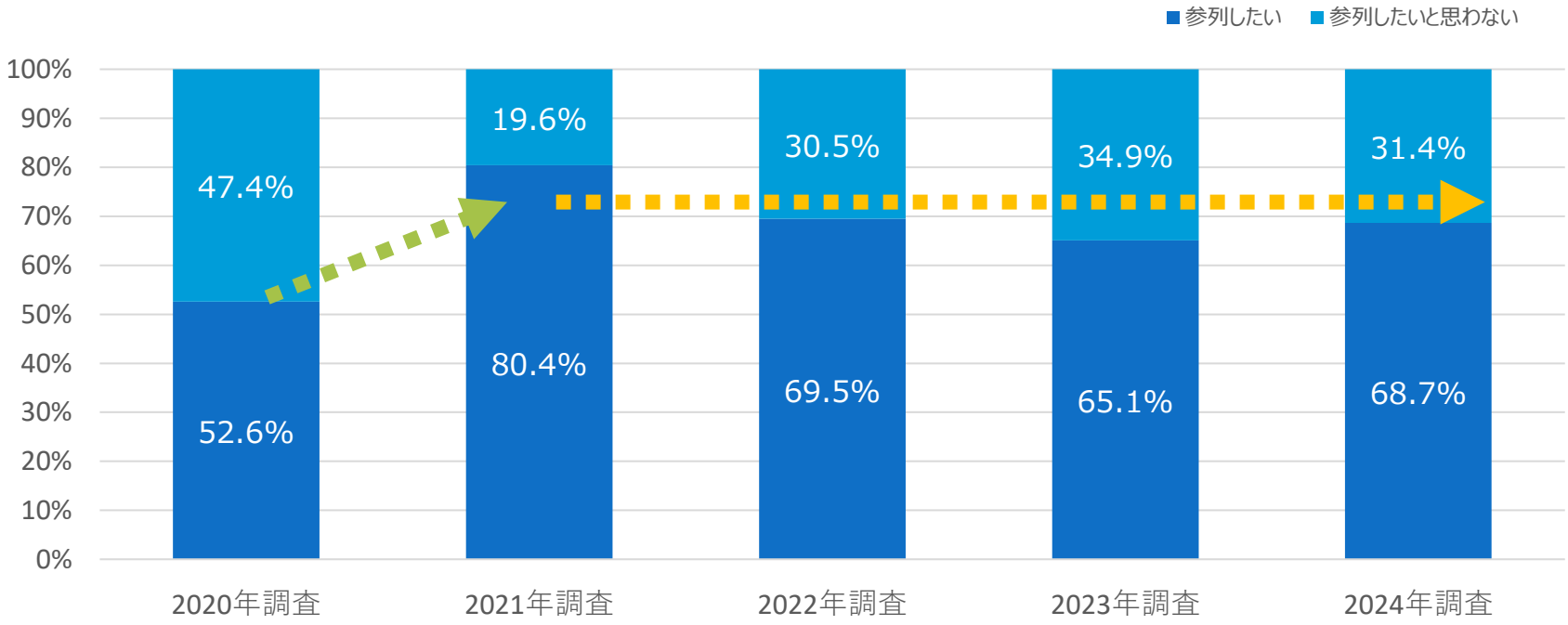
	30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200万円以上	わからない
2022年	17.0	19.6	25.3	11.0	5.4	2.4	19.2
2023年	20.6	18.4	25.2	9.6	4.3	1.5	20.5
2024年	19.8	17.5	23.9	9.8	4.5	2.0	22.7
互助会加入者	15.6	18.1	28.8	14.0	7.3	3.0	13.2
互助会未加入者	20.4	18.1	24.1	9.4	3.9	1.7	22.4

6.友人の葬儀への参列意向

6.1.　友人の葬儀への参列意向

親しい友人の葬儀への参列意向は、コロナ禍の制約下(2021年調査)で「参列したい」が大きく高まった。コロナ後も「参列したい」という意向は7割程度を維持しており、参列者側としての意識は低くない。

Q.あなたの親しい友人が亡くなったとした場合、「できる限り友人や知人なども参列できるようなご葬儀をやってもらいたい、自分も参加したい」と思いますか。



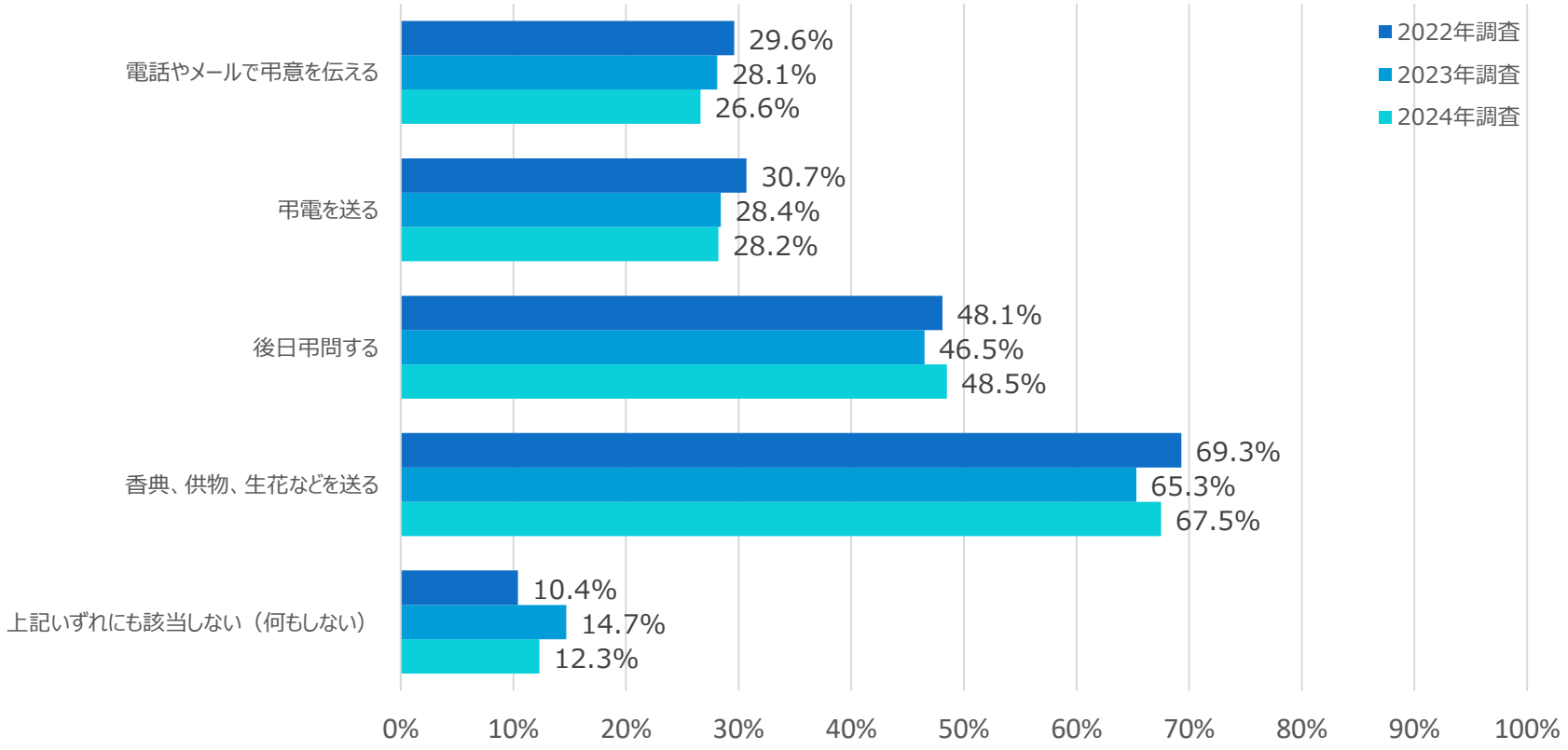
➡　**友人の葬儀に参列できない場合、どのような対応をするのか**

6.友人の葬儀への参列意向

6.2.　親しい友人の葬儀に参列できない場合の対応

3回の調査において、「香典、供物、生花など」「後日弔問」など手厚い対応を執る人の割合が高く維持されている。「何もしない」という人は少なく、訃報に対しては丁重に対応しようとする意識が高い。

Q.あなたの親しい友人が亡くなったが、例えば親族だけで行うなど葬家の都合で参列できない場合などには、もともとの参列意向に関わらずどうされますか



7.最近の葬儀のスタイルに対する評価

7.1.　最近の葬儀のスタイルに対する評価_1

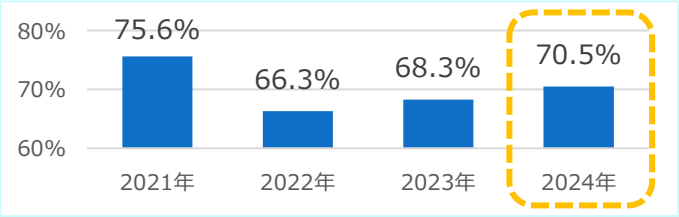
「一日葬」について、コロナ後でも賛同が多くなってきているのは「簡素化」の流れか。特に東京を含む関東での賛同が高い。

「通夜振舞い等の料理の接待は持ち帰りでよい」は一定の賛同を得ており、当初は感染回避の目的だったものが「簡素化」に意識が変わってきているのかも知れないが、賛同する人は減少の傾向にある。

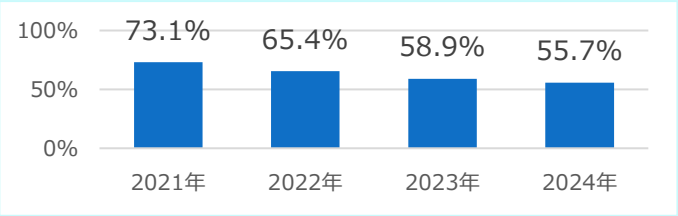
「直葬」一択で、良いと思うかを聞いた場合には47%の人が賛同している。

Q.ご葬儀において最近では次にあげるようなスタイルが行われているようですが、仮にあなたのご家族でのご葬儀を考えた場合、こうした葬儀のスタイルは良いと思いますか

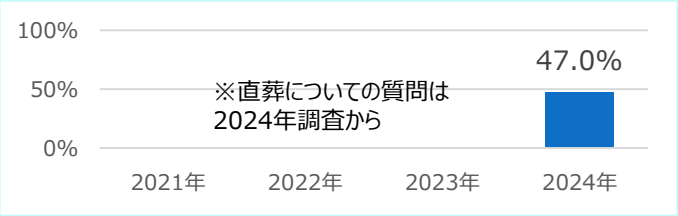
一日葬（お通夜を行わずご葬儀･告別式を一日で行う）で良いと思う



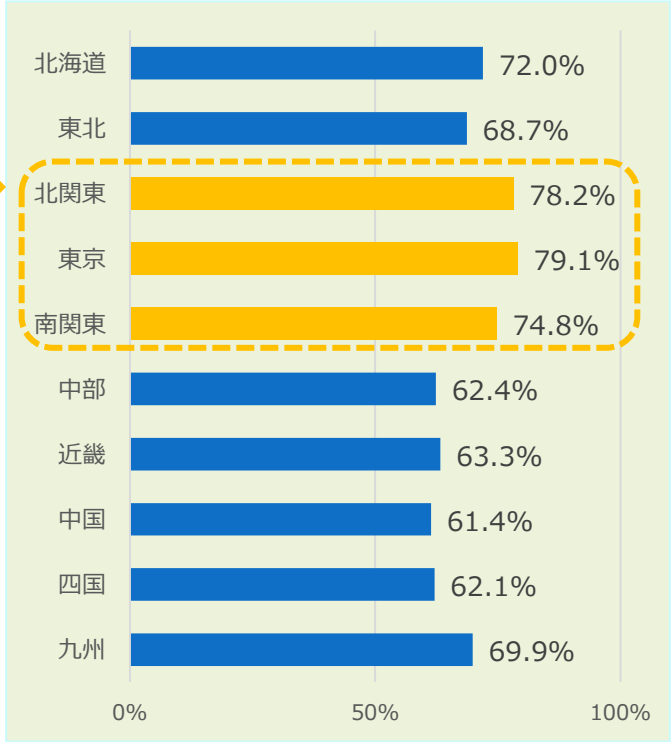
通夜振舞い等の料理の接待は持ち帰りで良いと思う



直葬（葬儀を行わずに火葬だけを行うもの）で良いと思う



一日葬を良いと思うと答えた人　地域別



関東圏で
「一日葬で良い」という
割合が高い

7.最近の葬儀のスタイルに対する評価

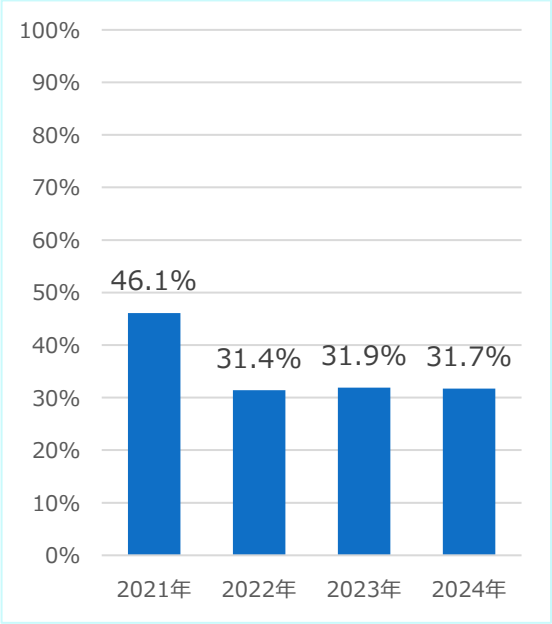
7.2.　最近の葬儀のスタイルに対する評価＿2

コロナを契機に導入が広がった「QRコード等を使った映像配信」「リモート映像による参列」は、コロナ収束によって賛同する人が減っている。但し、一定の水準を維持して賛同する人がいる。事情に応じて使いこなせば良いものだという評価であろうか。

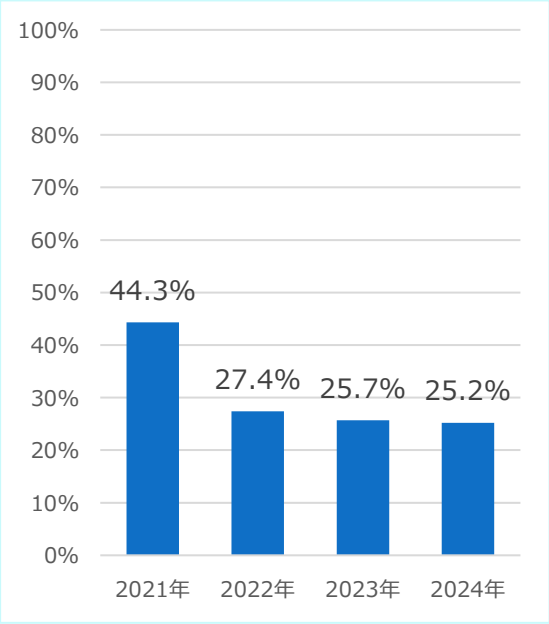
「メタバースによるバーチャル参列」についても一定の賛同を得ている。

Q.ご葬儀において最近では次にあげるようなスタイルが行われているようですが、仮にあなたのご家族でのご葬儀を考えた場合、こうした葬儀のスタイルにおいて良いと思いますか。

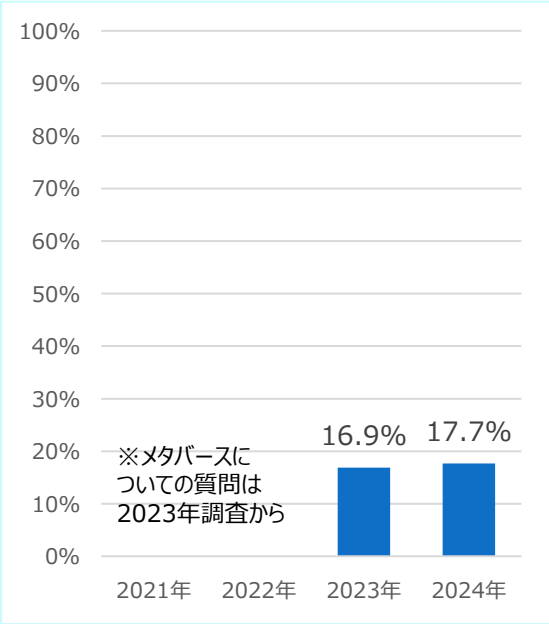
QRコード等を使ったご葬儀や故人の思い出映像の配信



ご葬儀のリモート映像配信をみることによるバーチャル参列



メタバースで実施されるご葬儀へのバーチャル参列



➡　次に、墓についてはどのような意識なのか

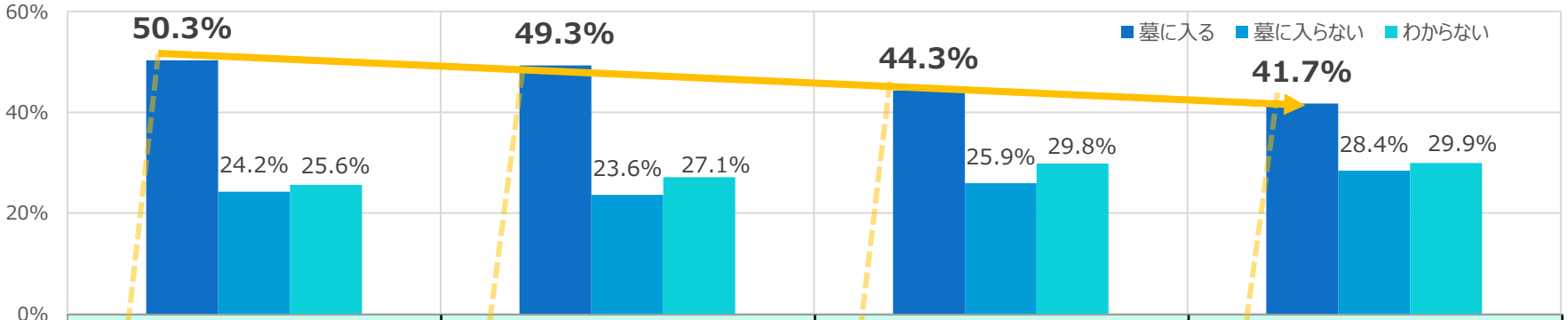
8.墓に対する意識

8.1.　墓に対する意識

自分の死後に「墓に入りたい」とする人は減少している。特に「家としての墓」がありながら「その墓に入るつもり」としている人が減って、「入らないつもり」「わからない」としている人が増えているのが目立つ。墓を維持していくことへの負担感を感じている人が増えているものと思われる。

ここでのお墓とは、お寺や霊園に墓石を設置するものを指す

Q.あなたは、入る予定のお墓「家としてのお墓」がありますか
－墓がある人にはその墓に入るつもりか、墓がない人には墓を持ちたいと思うかを聞いた－
（ここでのお墓とは、お寺や霊園に墓石を設置するものを指します。また、「家としての墓」は先祖代々の墓や家族が入っている墓を指します）



	2020年			2022年			2023年			2024年		
	n＝3,000人 墓がある：2,134／墓がない：866			n＝2,500人 墓がある：1,749／墓がない：751			n=2,000人 墓がある：1,370／墓がない：630			n=2,000人 墓がある：1,341／墓がない：659		
	墓に入る	墓に入らない	わからない	墓に入る	墓に入らない	わからない	墓に入る	墓に入らない	わからない	墓に入る	墓に入らない	わからない
	50.3%	24.2%	25.6%	49.3%	23.6%	27.1%	44.3%	25.9%	29.8%	41.7%	28.4%	29.9%
墓あり	46.3	9.3	15.5	46.6	9.6	13.8	41.4	10.1	17.1	38.6	11.1	17.5
墓なし	3.9	14.9	10.0	2.8	14.0	13.3	2.9	15.9	12.8	3.2	17.4	12.5

墓があるのに「入らない」「わからない」としている人が増えて、「入る」人の割合に近づいている。

➡　それでは「墓に入らない」とする人はどのような埋葬方法を志向しているのか。

8.墓に対する意識

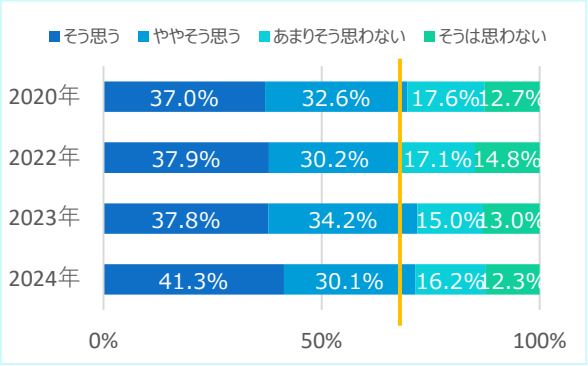
8.2.　墓以外の埋葬方法等についての意識

「墓に入らない」「わからない」とした人に墓以外の埋葬方法等について聞くと、「散骨など形は残らなくてよい」(約7割)、「樹木葬」（半数超）に肯定的な意見が毎年同程度、高い水準で推移している。

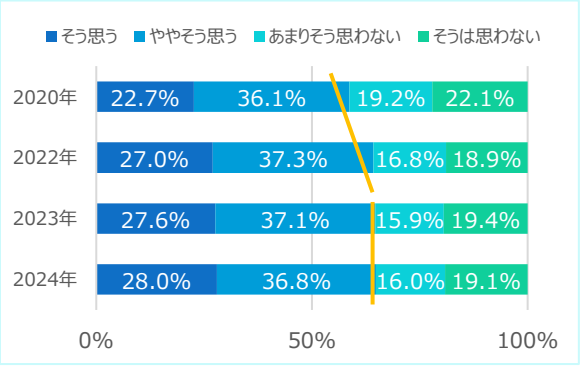
「合葬墓」は肯定する人が増えてきている。墓よりも維持管理の負担の少ない「納骨堂」は肯定する人が増えていたが、2024年調査では伸びが鈍化している。

Q.(前問で墓に入らない、わからないと回答した人に対して）以下のような新しい埋葬スタイルについてどう思いますか

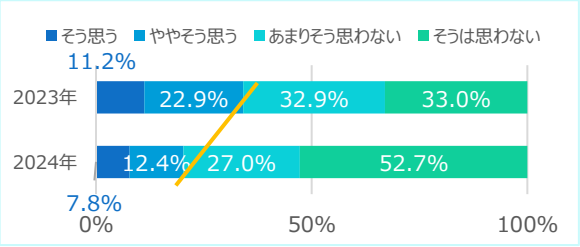
遺骨は散骨するなど、形は残らなくてよい



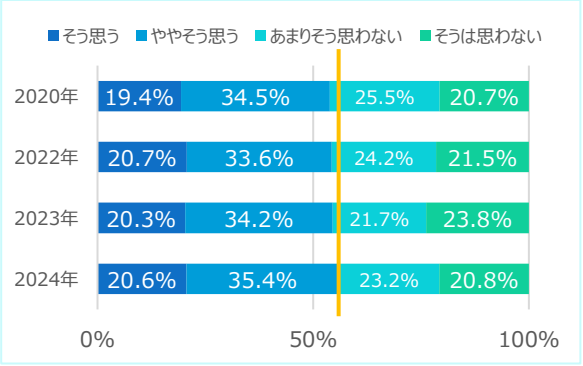
維持管理の負担の少ない納骨堂にしたい



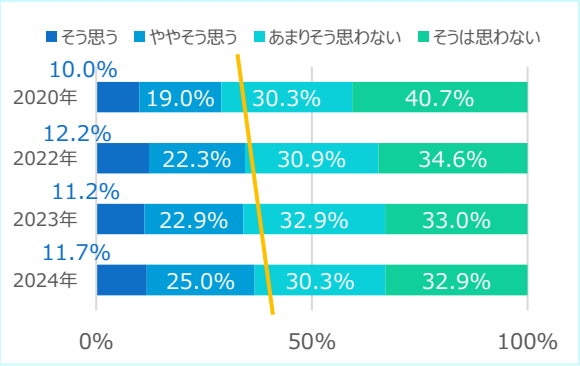
メタバース上のバーチャル墓地でよい



樹木葬にしたい



他の人と共同に収まる合同墓にしたい



・散骨：
遺骨を自然（海・空・山中など）に撒く葬送方法

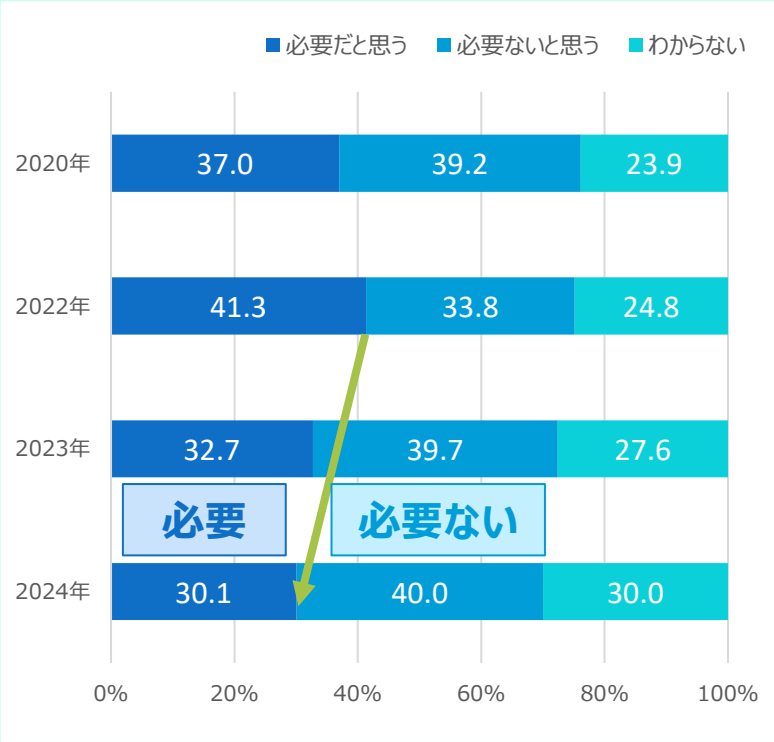
・樹木葬：
遺骨を地中に埋葬し、目印に木を植える埋葬方法

・納骨堂：
遺骨を安置しておくお寺または宗教者が運営する建物

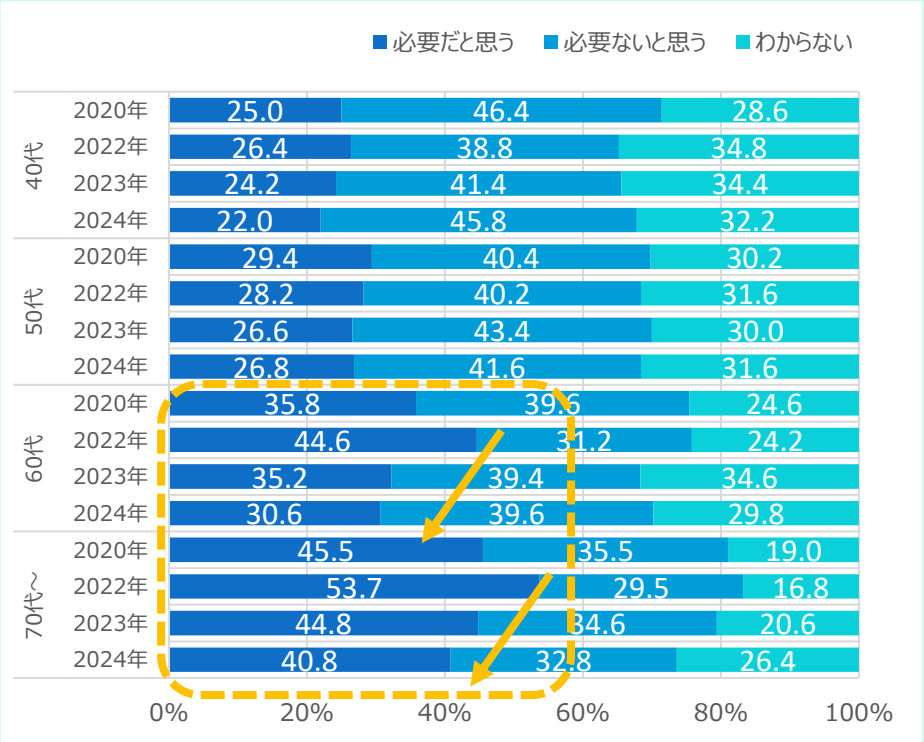
9.仏壇に対する意識

「仏壇を必要と思う」と回答した人の割合は、コロナ禍において一時増加していたがその後減少の傾向にある。60代・70代といった「必要だと思う」の割合が高い層において落ち込みが大きい。

Q.仏壇は必要なものだと考えますか



Q.年齢階層別　仏壇に対する意識の推移



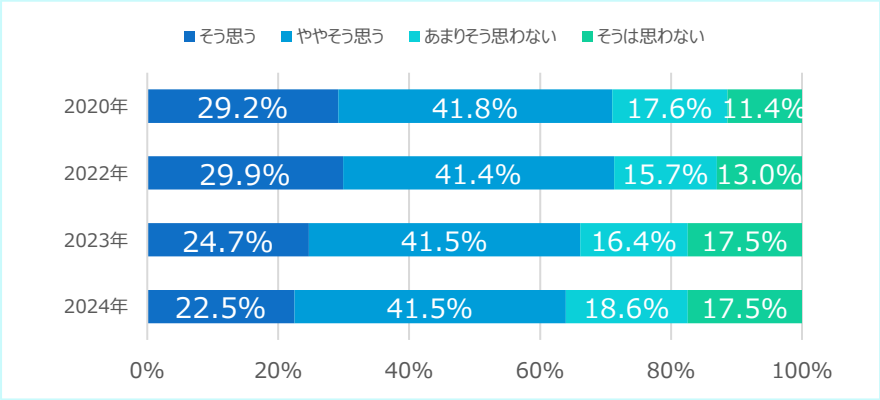
60代以上は必要だと考えている傾向が高いが
年々そう考える人が減ってきている

10.家族の年忌法要・家族の長寿祝い

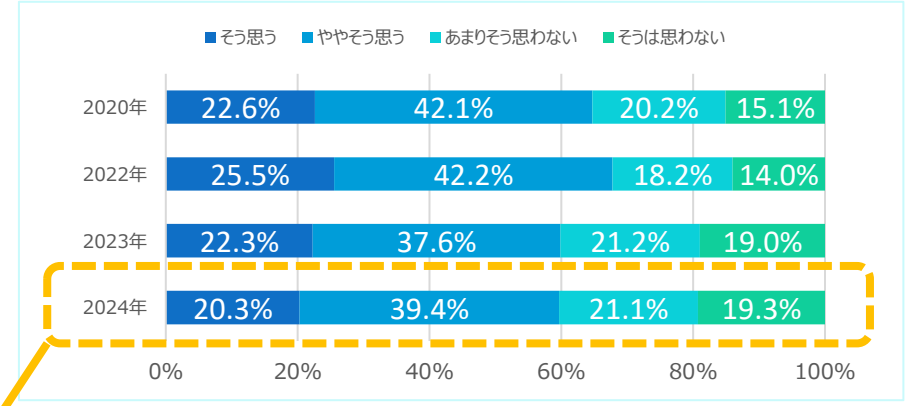
亡くなった家族の「年忌法要や」、家族の「長寿のお祝い」については「やってあげたい」の肯定意見が主流であるが、コロナの時期以降はその割合は減少の傾向にある。家族を思う気持ちはありながら、形式的なものは必要ないと考える傾向であろうか。

家族の葬儀に「一般葬」を望む人は、「長寿祝い」をすることに肯定的な傾向がある。

Q.家族の年忌法要は、できるだけやってあげたい



Q.家族の長寿祝いは、やってあげたい

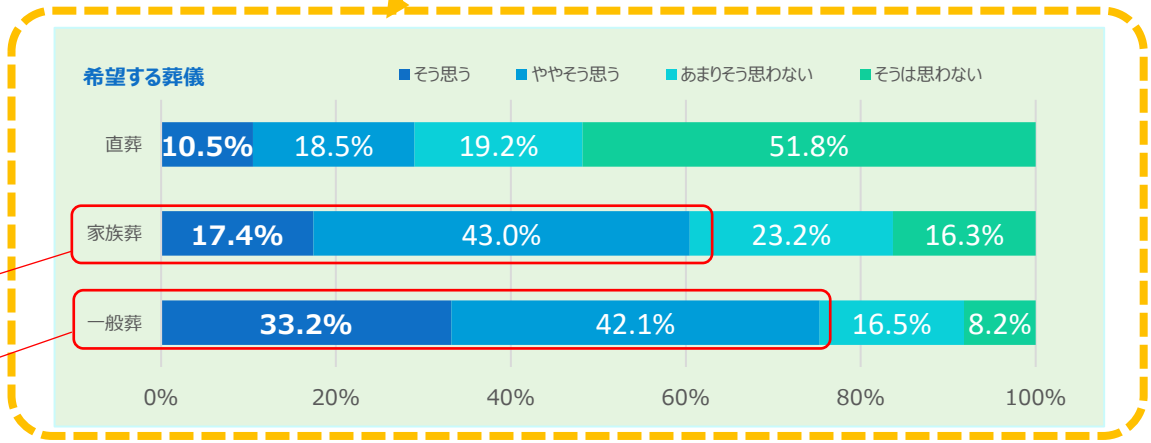


Q.家族の長寿祝いは、やってあげたい
→希望する家族の葬儀（2024年調査）

家族の葬儀に一般葬を希望する人は、家族の長寿祝いをやってあげたいとする人が多い

60.4%

75.3%



11.これからの葬儀のあり方　（自由意見）

「葬儀がどのようにあるべきか」という問いかけに対しては、故人を偲ぶ「気持ち」が重要で、形にはとらわれずに「家族と親しい者だけの」「故人や遺族の意向を尊重した」「簡素化した」葬儀で良いとする意見が大多数であった。

「何のために葬儀を行うのか」については、「故人を偲ぶ場」「遺族の心の区切りをつける・しっかりとしたお別れ」など、葬儀の意義についての意見が多く見られた。

Q.これからのご葬儀がどのようにあるべきか、例えば何のためにご葬儀を行うのか、何を大切にしてご葬儀を行うのか等について、お聞かせください。

簡素化された葬儀 ・人数よりも、簡素で構わないので気持ちのこもったものがいい ・葬儀は簡素化でよいと思うが、家族には見送ってもらいたい ・簡素化して時間を短くしてほしい ・直葬で十分な気がする	**故人を偲ぶ場** ・親族や仲の良かった人が集まり、偲ぶ場として葬儀は必要 ・故人を偲ぶ人を集めてあげたい ・これからは簡素化すると思うが故人を思う気持ちは不変 ・故人がお世話になった方には連絡しなくてはいけないと感じる ・家族が昔を偲べる環境を提供してもらえる業者を検討している	**形式にとらわれない** ・形式や規律にこだわらなくていいと思う ・特に決まりなく、自由でよいと思う ・故人を偲んであげればどんな形でもいいのではないか ・故人としっかりとお別れが出来れば形式にこだわらない
家族葬の推奨 ・親族や親しい知人だけでする家族葬がいいと思う ・家族だけで静かに送りたいし、送られたい ・身内だけで送ってあげたい ・ごく親しい人だけで故人を送り、心のこもった葬儀がいい	**費用の抑制** ・死んだ人より生きていく人のためにお金を使うべき ・とにかく安くおさめたい。仏壇もいらないし戒名もいらない ・お金のかからない質素な葬儀でよいと思う ・遺族の負担がかからないような葬儀	**儀式や形式へのこだわり** ・故人の魂の平安を祈るためと、故人とお別れするために必要 ・最後のお別れの儀式なので、きちんとすべきこと ・昔ながらのやりかたがいい ・何でも簡略化するのではなく、日本の文化や習慣、しきたりとしての部分を大切に守ることが必要。バーチャルなどとんでもない
故人の遺志を尊重 ・本人の意思を尊重した葬儀を行いたい ・事前に本人の意思や意見を聞き、なるべく要望に沿った葬儀を行う。本人の志を大切にしたい ・自分の葬儀については遺言書に書き、登記もしてある ・エンディングノートを残し家族に負担がかからないように準備したい	**個人の価値観を反映する葬儀** ・葬儀は必ずしも必要ではないと思う。やりたい人だけやればいいと思う。 ・人それぞれの考え方で行えばよい ・個人の考えで個々に判断すればよいと思う ・その家の状況に応じてふさわしいものにすればよいと思う	**現代的・柔軟な形態** ・現在のライフスタイルに合わせて多様性があって良いのではないか ・無宗教の葬儀がいいです ・時代に合わせた柔軟な形でよいが、故人や参列者を第一に考えた式であるべきと考える ・本人が元気なうちに感謝の会をやりたい
遺族／親族の意思を尊重 ・親族と相談したうえで決めたい ・遺族のやりたいようにすればいい ・残された方が納得するものであればよい	**葬儀の不要論** ・親戚がいないので葬儀はしたいと思いません ・必要性が全く感じられない ・自分も配偶者も葬儀は必要ないと考えている。親に関しては葬儀を行った	**「お墓」に対する簡素化・不要論** ・お墓の維持問題が大変なので簡素化していきたい ・規模は縮小してもいいと思うし、お墓もないならなくていいのではないかと思う ・残る家族の負担にならないようにお墓などは必要ないと思う
気持ちの区切りをつける儀式 ・きちんとお別れをするものとしたい ・葬儀は残された人が心の整理をするもの ・葬儀の行いが、故人を偲んだりお別れする気持ちの形として存在することは大切だと思う ・式を行わないと絶対に納得しない	**葬儀の場の考え方** ・残された家族・親族などのコミュニケーションの場 ・葬儀をどのように行うか、生前に話し合う機会を持つことも大事 ・コロナ以降リアルで人と会う機会が減少しているので、何らかの機会を設けて自分のかかわった人と会いたい。 ・生きてきた証	**散骨・樹木葬の希望** ・残された家族に負担がかからないように散骨で十分 ・核家族になっていくので墓守は大変なので散骨や樹木葬で済ませたい ・葬儀にはこだわらない。散骨を希望している

12.まとめ

本調査の結果を踏まえて、葬儀について以下の見立てを行った。

■小規模化・簡素化の傾向はさらに進んでいる

コロナ後「一般葬」が増えるも、つながりの希薄・故人の高齢化等による葬儀の小規模化・簡素化の進行
コロナ後においては、実際に行われている葬儀は「友人やお世話になった方も参列できる葬儀」(本報告での「一般葬」)が増えてきている。

しかし、コロナの時期を経験した以降は、葬家が知らせない･拒絶する(呼ばない)、訃報を聞いても遠方などを理由に参列しない(行く必要がない)など、「周囲とのつながりの希薄化」や「故人の高齢化」の影響が顕在化して、葬儀の小規模化、簡素化が進行している。
家族の葬儀に希望する形(意識)も、小規模･簡素な式が今のスタイルであるように伝えるマスコミやネットでの低価格表示などにも影響され、年々「家族や親族だけで行う葬儀」(本報告での「家族葬」)や「葬儀を行わずに火葬だけを行う」(本報告での「直葬」)が良いのではとする人が増加している。

■葬儀を大切に思う気持ちは低下していない。納得できる式にするためには葬儀事業者の力が必要

葬儀の意義は「気持ち」の部分を重要視
しかし、小規模化が進行する中でも、愛する家族を失う人にとって葬儀は重要なものであり、葬儀の意義(大切に思うこと)として「最後のお別れで遺族が心の整理をする」「関わりのあった方々に感謝の意を伝える･故人を偲んでもらう」といった「気持ち」の部分の意識は低下していない。

また､こうした「大切に思うこと」を叶えるためには「故人らしさや好みを表現した葬儀の演出」「自分の家族にふさわしい儀式」など何らかの行動や形が必要だと感じており、それについては事前の準備や専門家のアドバイスが必要だと思っている人が多くを占めている。

「故人らしさ」「家族にふさわしい」など、納得できる式を叶えるためには費用をかけてもいいと思う傾向
さらには、その場合にかかる費用に関しても「費用をかけたい」「納得できる価値ならば」という人が多数おり、「家族葬」を志向する人の中でもそのように考える人が多くいる。

画一的な葬儀の形に当てはめられることを不要として「限られた人だけで、思い思いの体裁で、故人を偲び、きちんとお別れができればよい」という考え方が進んではいるが、一方で「葬儀事業者の手助けによって思いが生かされる良い葬儀をしたい」と多くの人が期待していることも調査から分かった。

12.まとめ

■日頃からの関係構築や啓蒙活動の重要性

会員組織を活かした事前の関係構築・業界としての啓蒙活動

この期待に応えるためには、一人ひとりの顧客に寄り添い、向き合い、それぞれの思いを叶えていこうとする姿勢が重要と思われる。互助会の場合には、会員組織を活かして葬儀の前から接点を持ち関係構築をしていくことが今後の事業の発展に繋がるのではないか。

若い年代は上の年代と比べて、周囲との関係性があるため「一般葬」希望が多いが、反面「直葬」希望も多くなっている。従来からの形をそのまま受け入れない多様な価値観が窺える。将来を見据えた場合、葬儀の意義を伝えていく業界としての啓蒙活動も重要と思われる。

参列経験のある人は「一般葬」希望が高い。印象に残る参列経験となるしっかりとした葬儀を見せることが大切

「葬儀に参列した経験のある人」は「経験のない人」と比べて、「一般葬」を希望する人がずっと多くなる。参列することによって家族の葬儀を考える契機になっているのではないか。従って葬儀の簡素化に歯止めをかけるには、親しい人を葬儀に呼んでもらって「しっかりとした葬儀」を見せていくことが大切であると思う。「友人の葬儀への参列意向」や「参列できない場合の対応」の意識は高い。

■「互助会業界将来ビジョン研究会」の取り組み

「互助会業界将来ビジョン研究会」では、【一人ひとりにウェルビーイングな暮らしを届ける】として、事業活動を通じて個々の会員との関係を深め、会員同士のつながりを広げることで「心ゆたかな社会」の実現を目指すことが業界の進む道であるとして、その具現化に取り組んでいる。「良い葬儀」が行われるために、こうした「つながり」ある社会を創る活動に対して大きな期待が持たれる。